



15. キュウリウオ *Osmerus eperlanus mordax* (Mitchill) 図版 5

英名 rainbow smelt

露名 азиатская корюшка
アジアツカヤ コーリュシカ

地方名(北海道) キュウリ

漢字 胡瓜魚
きゅうりうお

アイヌ語名 フラルイチェブ、ヌイラ、パイカハチェヘ、アルコイ

【形態】 体は細長い円筒形で、やや側扁*する。脂びれ*がある。口は大きく、上あごの後端は瞳孔の後縁下よりも後方に達する。下あごは突出し、その前端に2～4個の鋭くて大きい歯がある。じょ骨*は左右2個あり、それぞれに1～2本の犬歯*状の歯がある。舌の上にも数本の大きな犬歯状の歯がある。うろこは円鱗*で小さい。背びれは体の中央よりも前方から始まる。尻びれはシシャモに比べて小さく、外縁は直線的である。側線*は体の前方にだけ存在する。うろこの頂点付近に1つずつの黒色斑がある。

生鮮時には野菜のキュウリに似たにおいがすることから、この名が付いた。アイヌ語のフラリイチェブは「においの強い魚」を意味する。

【生態】 朝鮮半島東岸からサハリン、カムチャツカ、アラスカを経てバンクーバー島までの北太平洋沿岸、白海からアラスカにかけての北極海沿岸および北大西洋カナダ沿岸に分布する。

日本国内では北海道にのみ生息し、太平洋およびオホーツク海に多い。沿岸性の魚種で、春に川に遡上^{そじょう}*して産卵する。北米では淡水域のみに生息する陸封型*の系群*もみられる。

噴火湾では体長*14.8cm、2歳で性成熟*し産卵する。抱卵数*は1万7,500~21万1,600粒。成熟卵*の平均直径は0.91~1.05mm。卵巣はほかのキュウリウオ科魚類と同様、左側が著しく大きい。

産卵期は、噴火湾周辺の河川では水温が7°Cくらいになる4月下旬~5月下旬。産卵場は河口から1~2km上流の水深30cm程度で、直径2~10cmの砂れき*のある場所。遡上は夜間、21時ごろから始まり、産卵は23時ごろから4時ごろまでの間に行われる。産卵後、ほとんどの個体は夜明け前に降海*するが、河川で死ぬ個体もある。

北海道東部を流れ根室海峡に注ぐ西別川では、1979年5月に産卵のために遡上したキュウリウオが大量に死に、河口域一帯に打ち上げられたという衝撃的な事件があった。道立釧路水試で調べた結果、キュウリウオが一晩に大量に遡上したため、夜間の河川水の溶存酸素が急減して、酸欠死を起こした可能性が高いことが分かった。

受精卵は球形の付着沈性卵*で、砂れきに粘着する。卵は多くの油球*を持つ。吸水後の受精卵の直径は1.28~1.51mm。水温11°Cでは19日程度でふ化する。ふ化仔魚*は全長*7.21~7.80mm。ふ化後6日目までに卵黄を吸収し、全長約8.8mmとなり、餌をとり始める。網走沿岸では1年で体長5~6cmに成長する。キュウリウオ科魚類のなかでは大型で、最大で体長30cmくらいになる。なお、日本ではキュウリウオの年齢と成長の関係および寿命は解明されていない。

エビ類を中心とした小型の甲殻類、ゴカイ類*、イカ類などを食べる。成魚*は小型の魚類を多量に捕食する。